

生活者が持つ「倫理」に対するイメージの分析（Ⅱ）

豊田尚吾¹

はじめに－問題意識

本稿はディスカッションペーパー10-09（以下、DP10-09）の続編である。DP10-09では生活者にとっての倫理について、まず何を意味するかを検討した後、生活者の意識調査のデータとテキストマイニングの手法を用いてその構造を確認した。

本稿においてはその倫理に対するイメージ、あるいは理解に関し、他の属性を考慮した場合の差異について考察を行う。具体的には、性別・年齢別、現在の幸福度別、世帯年収別という観点で、各人の倫理のイメージ把握に影響があるのではないかとの問題意識のもと、データの検討を行う。

ここで用いるデータは、DP10-09と同じである。すなわち、大阪ガス（株） エネルギー・文化研究所が行っている、生活者を対象としたWEB調査「ライフスタイルに関するアンケート」（2008年調査）の結果とTRUE TELLERという、テキストマイニングのソフトを用いて、内容を分析している。特に回答者の属性を考慮しない、全体としての結果に関しては、ディスカッションペーパー10-09の6ページ以降をご参照願いたい。その結果と何らかの違いが見られた項目に関して、次節以下で検討を行っている。

本稿における分析方法は、基本的にはDP10-09と同様である。ただし、属性別の差異を検討するために「グループ比較」を行っている。「キーワード抽出」においては、各属性で特徴的な、すなわち他の属性では希にしか検出できないキーワードをランキングしている。DP10-09と最も異なるのは「マッピング」であり、DP10-09が主成分分析による単語プロットであるのに対し、今回はコレスポネンス分析を用い、単語と属性を同じ平面上にプロットしている。

性・年代別

（1）頻出単語、主な話題

男女別に頻出単語を抽出した場合、特に際だった性差を把握することはなかった。敢えて相対的な比較でいえば、全体として頻度が多く、かつ女性が多く選んだ語として、「正しい」「ものごと」「悪い」「区別」「正義感」などといった、一般的な善悪、正邪の判定に関わるような語が検出された。（女性の方が男性よりも1.5倍以上の頻度で用い、かつ抽出ランキングで50位以内の語）

一方、男性が多く選んだのは「基準」「正義」「基本」「当たり前だ」という、文字通り、生活の基礎と認識しているように思える語であった。

係り受けを考慮した、2つの語の組み合わせである「主な話題」に関して、女性の場合「人－ある」「常識－ある」「人－言う」「人－判断する」「物事－判断する」という直感的に関連を認めることのできる語群が比較的多く見られた。一方、男性は「人－持つ」「心－持つ」「人－行動する」「最低限－守る」「人間－守る」といった、既に内面に持っていたり、守るべき基本的なものであったり、といったイメージにつながるような語の組み合わせが多かった。

（2）キーワード抽出

（1）での検討はあくまで頻出語の中での比較である。ここではその属性に特徴的に見られる

¹ 大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL） 主席研究員

キーワードという観点から抽出された言葉を検討してみたい。

①男性

男性に特徴的なキーワードは表 1 の通りである。「スコア」欄の数値は値が大きいほど、その属性（例えば 20 代男性）に特有のキーワードであることを示している。これを見ると、20 代男性の場合は上から「法律」「コンプライアンス」「特になし」「決まり事」「人間的だ」の順になっている。30 代男性は、上位から「対する」「公」「気難しい」「感覚」「哲学」、40 代男性は、「貢献する」「協調する」「不正」「美しい」「許す」、50 代男性は「平和」「表裏」「人類」「問題（問題ないといったような、否定的表現で用いられる）」、「自己」、60 代男性は「反する」「追う」「肉親」「不倫」「比べる」といった語が上位にランキングされていることが分かる。

表 1 男性に特有のキーワード（年代別）

No.	男性20代 (n=1226) (1226)	品詞	スコア	件数	男性30代 (n=355) (355)	品詞	スコア	件数	男性40代 (n=283) (283)	品詞	スコア	件数	男性50代 (n=332) (332)	品詞	スコア	件数	男性60代以上 (n=303) (303)	品詞	スコア	件数
1	法律	名詞	0.0032	20	対する	動詞	0.0050	2	貢献する	動詞	0.0064	2	平和	名詞	0.0055	3	反する	動詞	0.0062	3
2	コンプライアンス	名詞	0.0029	6	公	名詞	0.0050	2	協調する	動詞	0.0039	3	表裏	名詞	0.0054	2	追う	動詞	0.0059	2
3	特になし	名詞	0.0028	46	気難しい	形容詞	0.0050	2	不正	名詞	0.0038	2	人類	名詞	0.0054	2	肉親	名詞	0.0059	2
4	決まりごと	名詞	0.0024	7	感覚	名詞	0.0040	5	美しい	形容詞	0.0038	2	問題(否定)	名詞	0.0054	2	不倫	名詞	0.0035	2
5	人間的だ	形容詞	0.0024	7	哲学	名詞	0.0037	4	許す	動詞	0.0031	3	自己	名詞	0.0034	6	比べる	動詞	0.0035	2
6	哲学	名詞	0.0024	7	意味する	動詞	0.0029	2	真理	名詞	0.0031	3	抑える	動詞	0.0031	2	特になし	名詞	0.0035	17
7	基準	名詞	0.0022	36	作る	動詞	0.0029	2	区別する	動詞	0.0026	2	人生観	名詞	0.0031	2	適する	動詞	0.0028	3
8	正義	名詞	0.0021	22	優先する	動詞	0.0029	2	公序	名詞	0.0018	2	実際	名詞	0.0031	2	人間	名詞	0.0026	29
9	真理	名詞	0.0020	6	同じ	名詞	0.0029	2	曖昧だ	形容詞	0.0018	2	地球	名詞	0.0031	2	出る	動詞	0.0023	2
10	出る	動詞	0.0019	4	コンプライアンス	名詞	0.0028	3	人間らしさ	名詞	0.0018	2	知恵	名詞	0.0031	2	目撃	名詞	0.0023	2
11	含む	動詞	0.0015	5	思想	名詞	0.0028	3	日本人	名詞	0.0018	2	裏表	名詞	0.0031	2	高い	形容詞	0.0023	2
12	協調する	動詞	0.0015	5	やる	動詞	0.0023	11	良俗	名詞	0.0018	2	原理	名詞	0.0031	2	つながり	名詞	0.0023	2
13	逸脱する(否定)	動詞	0.0015	3	あり方	名詞	0.0019	2	全体	名詞	0.0013	2	含む	動詞	0.0021	2	価値	名詞	0.0023	2
14	比べる	動詞	0.0015	3	捕らわれる(否定)	動詞	0.0019	2	コンプライアンス	名詞	0.0013	2	豊かだ	形容詞	0.0021	2	関係	名詞	0.0023	2
15	迷惑	名詞	0.0014	59	強い	形容詞	0.0019	2	通す	動詞	0.0013	2	理想	名詞	0.0021	2	教え	名詞	0.0023	2
16	行為	名詞	0.0013	14	お金/収入	名詞	0.0019	2	もと	名詞	0.0013	2	者	名詞	0.0021	2	謙虚だ	形容詞	0.0023	2
17	行う(否定)	動詞	0.0013	6	分別	名詞	0.0017	5	みんな	名詞	0.0013	2	遵守する	動詞	0.0021	2	行為	名詞	0.0022	6
18	個人	名詞	0.0011	8	公正だ	形容詞	0.0017	5	筋	名詞	0.0012	4	ない	形容詞	0.0021	7	法律	名詞	0.0021	7
19	反する(否定)	動詞	0.0011	9	絶対だ	形容詞	0.0017	3	社会的	名詞	0.0010	4	正直だ	形容詞	0.0018	8	通す	動詞	0.0021	22
20	倫理	名詞	0.0011	27	いい	形容詞	0.0017	3	頑張る	動詞	0.0010	2	基本	名詞	0.0017	7	弱者	名詞	0.0016	2

この言葉から見ると、20 代では規則や法令遵守など、自分の外、つまりは社会に既に存在するものとして倫理を捉えている傾向があるようだ。30 代で抽出されたキーワードは多様だが、20 代で感じていた既にあるものとしての倫理を、自分の中に取り込もうという葛藤が現れているようにも思える。40 代になると、貢献する、協調するといったような、自分が主体的に取り組む対象として倫理を見るようになっていく。つまり、倫理が自分の内なる存在として融合され始めていくといえるのではないだろうか。

50 代になると、平和や地球といった、社会をより広くとらえる中で倫理を位置づけているという意味で、成熟を感じさせる。一方、60 代になると逆に肉親や不倫といった身近な課題と関わりの合いを持たせる、特につなごうを重視する方向に理解が進んでいるようだ。

解釈に関しては科学的手法を用いていないので、様々な見方があり得る。事実としていえるのは、表 1 に挙げられたようなキーワードが年代別に抽出されたということである。

表 2 女性に特有のキーワード（年代別）

No.	女性20代 (n=221) (221)	品詞	スコア	件数	女性30代 (n=361) (361)	品詞	スコア	件数	女性40代 (n=272) (272)	品詞	スコア	件数	女性50代 (n=332) (332)	品詞	スコア	件数	女性60代以上 (n=325) (325)	品詞	スコア	件数
1	出す(否定)	動詞	0.0052	2	一般的だ	形容詞	0.0090	9	指摘する	動詞	0.0070	3	神	名詞	0.0081	4	態度	名詞	0.0057	3
2	概念	名詞	0.0052	2	境界線	名詞	0.0078	5	こだわり	名詞	0.0067	2	恥じる	動詞	0.0055	3	最後	名詞	0.0055	2
3	答え	名詞	0.0052	2	聞く	動詞	0.0050	3	忠実だ	形容詞	0.0067	2	尽くす	動詞	0.0054	2	仁	名詞	0.0055	2
4	意味	名詞	0.0043	3	意見	名詞	0.0039	5	立場	名詞	0.0065	6	表す	動詞	0.0054	2	前向きだ	形容詞	0.0055	2
5	いい	形容詞	0.0036	3	気持ち	名詞	0.0038	8	お友達様	名詞	0.0053	3	自分	名詞	0.0046	47	年齢	名詞	0.0055	2
6	最低限	名詞	0.0031	10	部分	名詞	0.0036	3	かかる	動詞	0.0040	2	人	名詞	0.0037	108	恥じる(否定)	動詞	0.0044	6
7	世の中	名詞	0.0026	14	区別	名詞	0.0031	11	堂々たる	形容詞	0.0040	2	周り	名詞	0.0035	8	関係(否定)	名詞	0.0042	3
8	察い	形容詞	0.0026	2	法令	名詞	0.0028	2	身	名詞	0.0040	2	力	名詞	0.0031	2	得る	動詞	0.0042	3
9	問題	名詞	0.0026	2	理性的だ	形容詞	0.0028	2	相手	名詞	0.0036	6	社会性	名詞	0.0031	2	嘘	名詞	0.0040	5
10	客観的だ	形容詞	0.0021	3	大人	名詞	0.0028	2	含む	動詞	0.0027	2	説明	名詞	0.0031	2	道理	名詞	0.0039	8
11	理性	名詞	0.0021	3	口	名詞	0.0028	2	かわる	動詞	0.0027	2	比べる(否定)	動詞	0.0031	2	厳しい	形容詞	0.0035	4
12	区別	名詞	0.0020	7	行える	動詞	0.0028	2	頑が強い	形容詞	0.0027	2	心	名詞	0.0030	22	人生	名詞	0.0035	4
13	つく	動詞	0.0018	3	わかる(否定)	動詞	0.0024	18	外す(否定)	動詞	0.0027	2	気持ち	名詞	0.0030	7	正義感	名詞	0.0034	9
14	中	名詞	0.0016	7	マナー	名詞	0.0024	11	通る	動詞	0.0023	6	行動する	動詞	0.0027	26	ゴミ	名詞	0.0032	2
15	必要だ	形容詞	0.0016	6	平等だ	形容詞	0.0021	3	認める	動詞	0.0019	4	恥ずかしい(否定)	形容詞	0.0025	6	伝える	動詞	0.0032	2
16	遅く	動詞	0.0015	2	客観的だ	形容詞	0.0021	4	恥ずかしい(否定)	形容詞	0.0019	4	恥じる(否定)	動詞	0.0025	5	地域	名詞	0.0032	2
17	ちゃん	形容詞	0.0015	2	感情	名詞	0.0021	4	善悪	名詞	0.0016	35	音動	名詞	0.0025	7	規範	名詞	0.0032	2
18	わかる(否定)	動詞	0.0014	11	わかる	動詞	0.0019	9	農機	名詞	0.0015	3	持てる	動詞	0.0024	3	振き	名詞	0.0032	2
19	緩し	名詞	0.0013	4	推す	動詞	0.0018	2	身付ける	動詞	0.0015	3	主張する	動詞	0.0024	3	働く	動詞	0.0032	3
20	概念	名詞	0.0012	2	立てる	動詞	0.0017	4	外れる(否定)	動詞	0.0014	7	世界	名詞	0.0024	3	仕事	名詞	0.0032	3

②女性

女性に特徴的なキーワードは表 2 の通りである。

これを見ると、男性同様、20代女性の場合は上から「出す（出さないといったような、否定的表現とともに用いられる）」「概念」「答え」「意味」「いい」の順になっている。30代女性は、上位から「一般的だ」「境界線」「開く」「意見」「気持ち」、40代女性は、「指摘する」「こだわり」「忠実だ」「立場」「お天道様」、50代女性は「神」「恥じる」「尽くす」「表す」「自分」、60代女性は「態度」「最後」「仁」「前向きだ」「年齢」といった語が上位にランキングされている。

女性のキーワードは男性ほど解釈が容易ではないと感じた。ただ、総じて穏やかな言葉遣いが特徴的であるという印象を受けた。20代女性に関しては、優しく、思いやりのあふれた世の中であるために最低限必要な、理性的で客観的な概念として、倫理を捉えているようだ。ただ、まだ統一感は何えない。30代女性に関しては、境界線、区別、マナーといったように、倫理の生活への適用（応用）が実現している印象を受けた。

40代女性については、相手、立場、指摘する、というように、より生活感のあるキーワードが抽出されており、身近な生活との関わり合いに倫理との接点を見いだしている様子が伺える結果となっている。50代女性では神、周り、世界、恥、恥じる、という言葉が目立っており、自分と異なる存在にあわせていく姿が見える。60代女性では態度、仁、道理、模範、仕事といったように、自ら範を示すというようなリーダーシップが感じられるようなキーワード群となっている。

これも男性同様、客観性や科学性を確保することは困難であるが、各年代が直面している生活環境に合わせて、倫理という言葉解釈しようとし、その結果として異なるキーワードが抽出されたようだ。

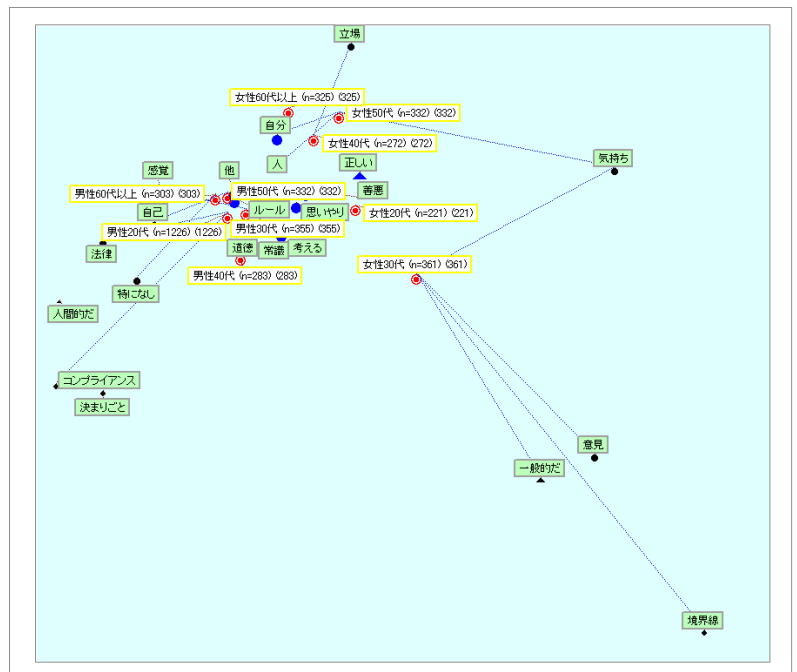
(3) マッピング

前節では性別・年代別に、どのような特徴的なキーワードが抽出されたかを確認した。結果の解釈についてはかなり恣意的になっているため、もっと客観的な方法で各属性の意味づけを行いたい。本項ではその方法として、マッピングを利用する。これは一種の相関分析と理解していただきたい。

その結果が図1である。赤丸が各属性のポジションを表している。まず分かるのは、属性としては年代よりも性別の影響が大きいということである。図の右側に女性、左側に男性が偏っている。性別年代を見ると、女性が比較的分散しているのに対し、男性の場合は40代層を除き、図の左上部に固まっているように見える。

性別で見ると、女性が位置する図右部には気持ち、立場、正しい、意見、といった身近な言葉があるのに対し、男性が位置する左部にはコンプライアンス、法律、感覚といったやや抽象的な語が多いことが分かる。人、自分、思いやり、常識、ルールといった語はほぼ中央に位置し、男女ともにそのような概念を共有していることが見て取れる。

図 1



年代別で見ると、女性の場合、20代、30代の位置づけを別とすれば、年齢層が上がっていくにつれて図の左上方向に重心が移動している。前項でも述べたが、20代、30代では客観的な決まりや一般的、というイメージを持っているが、次第に人、立場といった、具体的な存在としてのイメージが成熟化しているようだ。

一方男性の場合、年代別では顕著な差は見られない。敢えていえば、40代を中心とした若年層の方が、コンプライアンスや法律といった社会（外部）から守ることを強いられる規範にやや近いところにポジションを取っている。逆にいえば、50代、60代以上が、より人、自分といった内面を重視しているようだ。

以上、性別・年代別に見ると、男女で多少の違いが見られた。これは就業状態といった、回答者の生活環境が影響しているのではないかと推測する。年代別に見たところ、女性の方が年齢を重ねるにつれて成熟度を増すような変化が見られるのに対し、男性の場合にはこれといった、特徴的な差を確認することはできなかった。

現在の幸福度別

本節では「今、幸福かどうか」をたずね、その回答によって、倫理に対するイメージが異なるのではないかと推測のもと、データ分析を行う。倫理というものが、社会の秩序維持のために守られるべき規範だとすると、その社会の持続可能性に対する期待、というものが倫理のイメージ形成に影響するであろうと考えた。

現在の幸福感が高ければ、この状態を維持することに対して肯定的になり、倫理に対するイメージも積極的な評価につながっているのではないかと推測する。逆に不満が大きければ、社会に対する配慮に無関心であったり、消極的であったりするのではないかと推測する。このような事前の仮説を設定してデータを分析した。

(1) 頻出単語、主な話題

ここでは現在の幸福感に関して「幸福である（1987名）」「どちらともいえない（546名）」「幸福ではない（482名）」の3段階に分類し、各グループと倫理のイメージについてデータ解析を行っている。

まず頻出単語のランキングを見る。幸福である、どちらともいえない、幸福ではない、の順番にランキングが落ちていく単語、すなわち幸福感を持っているほど選択されやすく、かつ上位にランキングされている単語は以下の通りである。「自分」「考える」「生きる／生活する」「行動する」「正しい」。

それに対し、逆に幸福ではないと答えたグループにより多く抽出されているのは「思いやり」「道徳」「持つ」「道」「迷惑」などである。幸福であるほど考える、行動する、生きるといった、能動的な語が多く、幸福でない場合には道徳、思いやりといった、倫理の定義に近い、静的な語が選ばれているようだ。

一方、主な話題に関しては、幸福なほど多いのは「人－生きる／生活する」「ルール－守る」「自分－考える」「必要だ－生きる／生活する」「常識－持つ」である。一方、幸福でない人ほど多いのは、「道－外れる（否定）」「人－持つ」「思いやり－ある」となっている。

頻出単語に比べれば少し曖昧になっているものの、幸福ではないと答えたグループは道や思いやりといった、本来の人間の善性に結びつけて、倫理を捉えているようだ。

(2) キーワード抽出

前節と同様に、各グループの独自性を表すようなキーワードを統計的判断基準から抽出すると、表3のような結果となった。

表3

No.	1-3. 幸福である (n=1987)	品詞	スコア	件数	4. どちらとも (n=546)	品詞	スコア	件数	5-7. 幸福ではない (n=482)	品詞	スコア	件数
1	行動する	動詞	0.0023	103	特になし	名詞	0.0064	30	対応する	動詞	0.0038	4
2	上	名詞	0.0019	11	わかる(否定)	動詞	0.0052	29	表せる(否定)	動詞	0.0035	2
3	生きる/生活する	動詞	0.0016	132	地球	名詞	0.0045	3	維持する	動詞	0.0035	2
4	立つ	動詞	0.0014	8	人間的だ	形容詞	0.0035	5	エチケット	名詞	0.0035	2
5	社会的だ	形容詞	0.0013	30	後	名詞	0.0030	2	人情	名詞	0.0035	2
6	モラル	名詞	0.0012	35	人類	名詞	0.0030	2	現代	名詞	0.0019	2
7	捉える	動詞	0.0012	7	習慣	名詞	0.0030	2	見本	名詞	0.0019	2
8	世界	名詞	0.0012	7	表裏	名詞	0.0030	2	想像力	名詞	0.0019	2
9	尊重する	動詞	0.0012	7	規制	名詞	0.0030	2	厳しい	形容詞	0.0018	4
10	触れる(否定)	動詞	0.0012	7	教え	名詞	0.0029	3	みんな	名詞	0.0017	3
11	自分	名詞	0.0011	187	話	名詞	0.0020	3	全体	名詞	0.0017	3
12	考える	動詞	0.0011	136	日本人	名詞	0.0020	3	外れる(否定)	動詞	0.0016	11
13	もと	名詞	0.0010	6	勇気	名詞	0.0020	3	悪い	形容詞	0.0014	15
14	すべて	名詞	0.0010	6	規則正しい	形容詞	0.0016	2	ずる	動詞	0.0014	7
15	信じる	動詞	0.0010	10	前	名詞	0.0016	2	反する(否定)	動詞	0.0014	5
16	幸せ	名詞	0.0010	10	けじめ	名詞	0.0016	2	導く	動詞	0.0013	3
17	恥ずかしい(否定)	形容詞	0.0010	13	気付く(否定)	動詞	0.0016	2	社会生活	名詞	0.0012	7
18	決める	動詞	0.0010	13	大人	名詞	0.0016	2	社会的	名詞	0.0011	6
19	行為	名詞	0.0010	19	置く	動詞	0.0016	2	現実的だ	形容詞	0.0011	2
20	物事	名詞	0.0009	64	伝える	動詞	0.0016	2	円滑だ	形容詞	0.0011	2

これを見ると、幸福であると答えたグループに特徴的な言葉は「行動する」「上」「生きる/生活する」「立つ」「社会的だ」といったものである。どちらともいえないグループでは、「特になし」「分かる(否定型)」「地球」「人間的だ」「後」であり、幸福ではないグループの場合、「対応する」「表せる(否定形)」「維持する」「エチケット」「人情」となっている。

前項同様、幸福であるグループの積極性(能動性)は確認できる。一方、どちらともいえないグループに無関心層やグローバルな観点を持った層が見られることは今までにない発見である。

ただ、幸福ではないグループに関して、人情という語があるものの、人間の善性に期待しているという見解が妥当であるかどうかについては明確ではないといえるだろう。その意味では前項の結果よりはやや曖昧な意味づけしか与えることはできない。

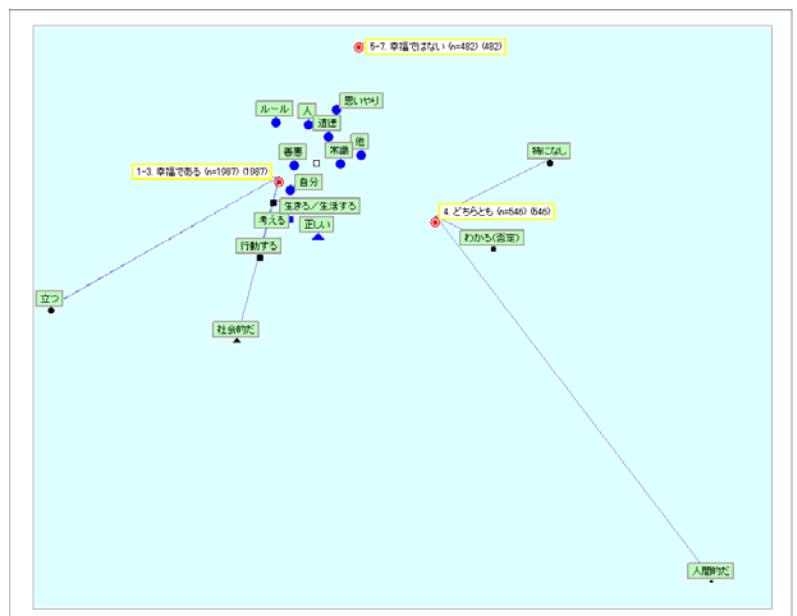
(3) マッピング

3つのグループをマッピングしたのが図2である。これを見ると、やはり行動する、考えるといった能動的な語の近くに幸福であるグループの重心がポジションを取り、思いやり、道徳、という既存の概念と近い場所に、幸福ではないグループが存在する。

どちらともいえないグループは、一直線上に並べれば、幸福である、幸福ではないグループの中間に位置するが、実際には特有の要因に引っ張られていることが分かる。特になし、わかる(否定形)といった、無関心、あるいは否定的な認識が、この層を特徴づけている。

ここで、これをさらに男女別で分けた上でマッピングをしてみた。すると結果が図3のように

図2



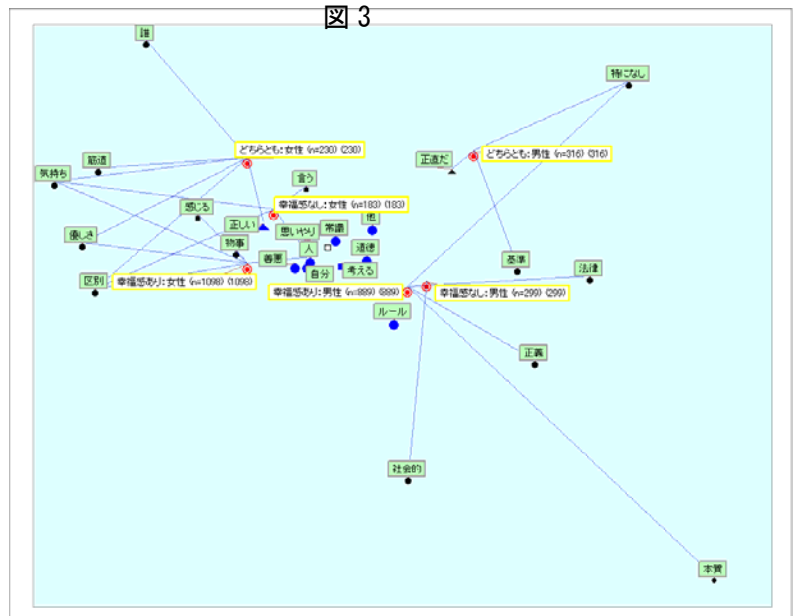
なった。これを見ると、幸福感別の倫理イメージに差を創り出していたのは、女性であるということが分かる。すなわち、幸福である男性は、幸福である女性よりも、幸福ではない男性との距離の方が近くなっている。女性の場合も同様である。

幸福ではない女性グループが思いやりや常識といった語との関連が強いため、結果として本節で述べてきたような結果が現れたのであろう。そういう意味では、やはり、倫理に関する男女差の重要性があらためて理解できる。

逆に、どちらともいえないグループで無関心層が多いと述べたが、それはグループの中の男性の特徴として把握することができる。

以上、幸福感の状況によって、倫理に対して持つイメージが異なるのではないかとの仮説を持ち、データを検討してきた。結果的には本節も、男女差の影響が大きいという結果となった。

ただ、幸福感について、どちらともいえないというような、中立的な回答をする場合には、倫理に関しても無関心である（特に男性）ことが多いようだ。



世帯年収別

本節では世帯年収を 400 万円未満（884 名）、1, 000 万円未満（1699 名）、1, 000 万円以上（432 名）の 3 段階に分け検討する。倫理のイメージ形成に与える影響を考えたとき、幸福度と同様に所得の変数も大きな影響があるのではないかと考えた。また、年収とともに、社会のあるべき政治的立場（自由主義的であるか、リベラルであるか）も重要と考え、2 次的分類には、自由尊重主義、リベラリズム、共同体主義、セン的リベラリズム（潜在能力尊重主義）の 4 分類を採用した。

（1）頻出単語、主な話題

上記の通り、3 段階に分けて頻出語を確認したとき、年収が低いほど多く抽出された単語は、「他」「思いやり」「正しい」「道徳」「ルール」「分かる（否定形）」「特になし」である。一方、年収が高いほど多く抽出された単語は「自分」「人間」「生きる／生活する」「判断する」「行動する」「心」である。

一定程度、幸福感との相関が見られる。すなわち年収が高いほど能動的に倫理を捉えており、年収が低い場合には思いやりや道徳など善性に関連づける傾向が見られる。ただし、前節では、重要な原因として男女差を指摘した。

一方、主な話題に関しては、年収が低いほど頻出するのは「人—ある」「善悪—違う」「ルール—守る」「人—言う」などであり、逆に年収が高いほど頻出するのは「人—守る」「道—外れる（否定形）」「人—持つ」「心—持つ」となった。

これらを見る限りでは似たような語が抽出されており、明確な差異は確認できないという結果

になった。

(2) キーワード抽出

次に、キーワードの抽出を行った。その結果が表 4 である。

表 4

No.	400万円未満 (n=884)	品詞	スコア	件数	400~1000万円未満 (n=1699)	品詞	スコア	件数	1000万円以上 (n=432)	品詞	スコア	件数
1	わかる(否定)	動詞	0.0074	44	気遣い	名詞	0.0015	6	それる(否定)	動詞	0.0060	3
2	尊敬する	動詞	0.0032	4	常識	名詞	0.0015	141	良い(否定)	形容詞	0.0060	3
3	現実的だ	形容詞	0.0032	4	価値観	名詞	0.0013	19	使う	動詞	0.0060	3
4	国	名詞	0.0027	6	人生	名詞	0.0013	8	進める	動詞	0.0060	3
5	前	名詞	0.0024	3	自然	名詞	0.0013	5	歩む	動詞	0.0040	3
6	答え	名詞	0.0024	3	近い	形容詞	0.0013	5	高校	名詞	0.0040	3
7	繰引き	名詞	0.0024	3	左右する(否定)	動詞	0.0013	5	ベース	名詞	0.0040	2
8	身に付ける	動詞	0.0021	7	筋	名詞	0.0011	14	控えめだ	形容詞	0.0040	2
9	真理	名詞	0.0020	5	正当だ	形容詞	0.0010	7	進む(否定)	動詞	0.0040	2
10	気持ち	名詞	0.0019	12	後ろめたい	形容詞	0.0010	7	自己	名詞	0.0033	7
11	特になし	名詞	0.0016	33	育てる	動詞	0.0010	4	人間	名詞	0.0029	39
12	取り組む	動詞	0.0016	2	外す(否定)	動詞	0.0010	4	神	名詞	0.0028	3
13	好きだ	形容詞	0.0016	2	突き進む	動詞	0.0010	4	話	名詞	0.0028	3
14	前向きだ	形容詞	0.0016	2	頭が堅い	形容詞	0.0010	4	心	名詞	0.0026	26
15	存在する(否定)	動詞	0.0016	2	うまい	形容詞	0.0010	4	考える	動詞	0.0025	40
16	維持する	動詞	0.0016	2	当てはまる	動詞	0.0010	4	節度	名詞	0.0022	2
17	多い	形容詞	0.0015	6	通用する	動詞	0.0010	4	生命	名詞	0.0022	2
18	自身	名詞	0.0014	5	信じる	動詞	0.0010	9	おかしい	形容詞	0.0022	2
19	いい	形容詞	0.0014	5	立場	名詞	0.0009	11	知恵	名詞	0.0022	2
20	純粋だ	形容詞	0.0013	3					原理	名詞	0.0022	2

これを見ると、年収が 400 万円未満のグループに特徴的な語として「わかる（否定形）」「尊敬する」「現実的だ」「国」「前」などが挙げられている。同様に年収が 1000 万円未満のグループでは「気遣い」「常識」「価値観」「人生」「自然」などが、1000 万円以上のグループでは、「それる（否定形）」「良い（否定形）」「使う」「進める」「歩む」といった語が抽出されている。

気遣い、常識、価値観など、1000 万円未満のグループで挙げられている語は、今までにもしばしば登場した、見慣れたものである。しかし、「使う」「進める」「歩む」「尊敬する」などは、あまり上位の項目としては取り上げられていなかった。

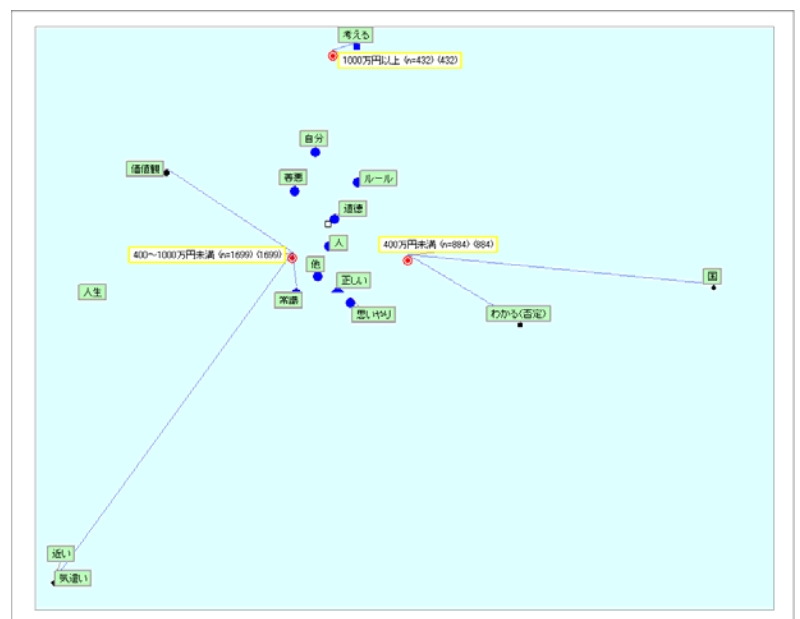
この解釈はやや困難である。6 位以下の語を見ても、これと違って、各グループを特徴づけるような、統合されたコンセプトや違いを見つけにくい。

(3) マッピング

(1)、(2) ではあまり特徴的なキーワードを抽出することができなかつたので、最後にマッピングを行ってみる。まず、年収だけでポジションを計測した結果が図 4 である。

善悪、ルール、道徳、正しい、思いやりなどは、年収 400 万円未満グループと 1000 万円未満グループとの間にある、どのグループの特徴にもなり得ていない。敢えていえば、400 万円未満グループは「分かる（否定形）」と「国」がその違いを形成している。同様に 1000 万円未満グループでは「価値観」「常識」「気遣い」「近い」となっている。400 万円未満グループがやや無関心であったり、国との関連で倫理を捉えていたりする

図 4



のに対し、1000万円未満グループは実生活により近いところでの判断が倫理のイメージ形成に影響を与えているようだ。

一方、1000万円以上グループに関しては、多くの語とは相対的に距離をとり、「自分」「考える」という語に近いポジションを取っている。このことから年収が高いグループは、倫理というものを自分独自のものとして考え、捉え、イメージを作っているのではないかと解釈が可能かもしれない。

次に年収に政治的立場を組み合わせたマッピングも行って見たが、これも特徴的な結果を導き出すことはできなかった。

以上のことから判断して、年収の高低と倫理に対するイメージとの間には、それほど特徴的な関係は見られない。現段階ではこのように結論づけることが妥当であると考え。

最後に

以上、DP10-09でも用いたデータを利用し、倫理に対するイメージ形成に、どのような要因が大きな影響を与えるのかという問題意識から分析を行った。まず、性別・年代別における、男性・女性という視点では、前者がコンプライアンス、法律、感覚といった、やや抽象的な語と倫理を関係づけて理解していること、年代別で見た場合にはそれほど差異は見られないという結果を得た。一方、女性の場合は、20代、30代では客観的な決まりや一般的なルールと倫理を結びつけているが、次第に人、立場といった、具体的な存在としてのイメージが成熟化していくように思えた。

現在の幸福度で判断すると、幸福-幸福でないという、一次元的な差異ではなく、どちらともいえないというグループが、倫理に対するある種の無関心層を形成するという特徴が見られた。幸福であるグループは能動的に倫理を捉える傾向が見られたが、詳しく見てみると、その差異の主な部分が各グループの女性の特徴の差から発生しているのではないかと示唆を得た。

最後に年収（所得）と倫理のイメージの関係を見ようと試みたが、明確な差異を見いだすことはできなかった。現時点では、所得（裕福であるか否か）と倫理のイメージに関する見いだせないという結論が妥当であると考え。

このような結果を見てくると、倫理のイメージに関し、性差が比較的明確に結果に現れるのに対し、現在の環境にはそれほど大きな影響を受けていないのではないかと考えにたどり着く。確かに、倫理といった抽象的な語に対するイメージは、状況によってそれほど頻繁に変わるものではなく、一旦形成してしまえば、かなり安定的に維持されるであろう。そう考えれば、現在の所得や全体としての幸福度と強い相関を持たず、性差というような、生まれながらの特徴に、より大きく関連しているという結果は納得できる。

しかし、それは逆にいえば、個人が持つ倫理観は、そう簡単に変えることができないという結論にもつながる。啓発や議論によって、社会状況の理解を変化させようとする場合の障害ともいえる。それは今後の課題となるであろう。

本項での分析はあくまで限られたデータに基づくものであり、結果の解釈に関してもかなり恣意的な部分があることを認めなければならない。従って、考察や結論に関してはまだまだ検討の余地が残っていることを今一度確認しつつ、拙稿の結びとしたい。

以上

(2011年1月31日)

<参考文献>

- 豊田尚吾（2008）「倫理的消費の可能性と課題」生活経済学会関西部会 2008 年度研究大会報告
- 豊田尚吾（2009a）「責任ある消費者の意志決定に関するデータ分析」生活経済学会 2009 年度第 25 回研究大会報告
- 豊田尚吾（2009b）「責任ある消費者の消費意志決定と消費行動に関する構造分析～行動理論モデルを用いたデータ分析～」日本経済学会 2009 年年度秋期大会報告
- 豊田尚吾（2010）「責任ある消費者の意思決定と消費行動に関するデータ分析～多母集団の同時分析～」生活経済学会 2010 年度第 26 回研究大会報告
- 山脇直司（2002）『経済の倫理学』，丸善株式会社